

「JPMベスト・インカム (年1回決算型/毎月決算型)」 JPモルガン・アセット・マネジメント

金融商品の
取扱説明書
トリセツ

— 第48回 —

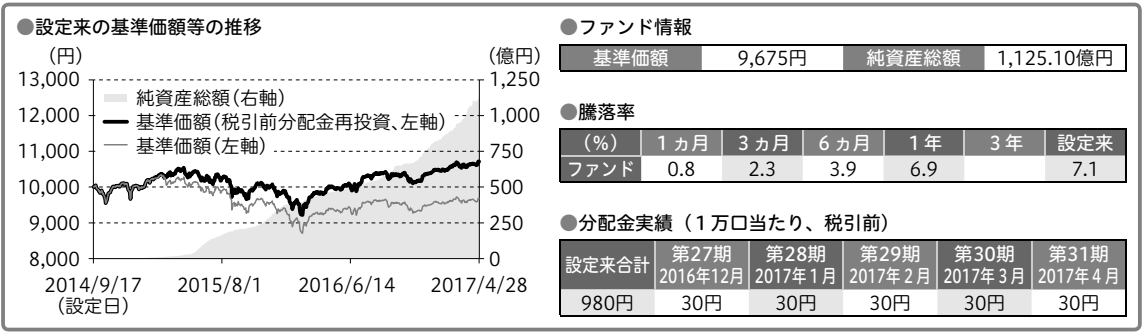
世界中の有価証券に分散投資を行い、インカム収益の獲得を目指す『JPMベスト・インカム』。安定的なリターン、中程度のリスク水準が評価され、メガバンク・地方銀行を中心に販売会社が増加、資金流入が続いている。ファンドの特徴や活用方法などについてFPでファンドアナリストでもある吉井崇裕さんに質問していただいた。



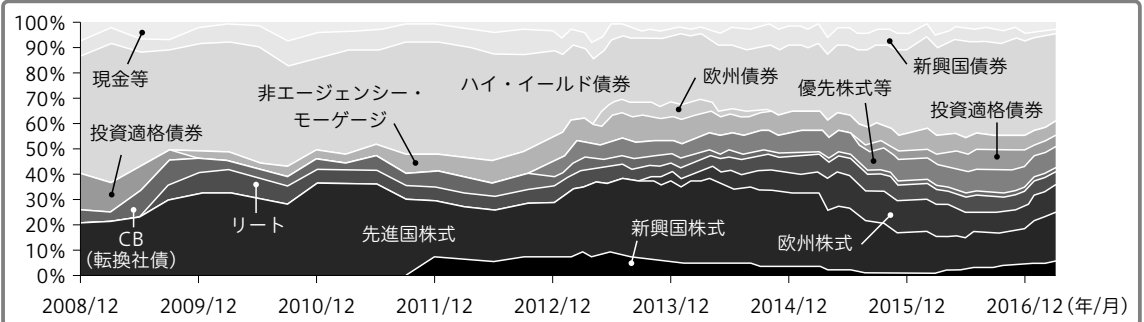
JPモルガン・アセット・マネジメント
山崎まり
グローバル運用商品部
クライアント・ポートフォリオ・マネジャー

吉井崇裕
Interviewer
よしいたかひろ/アイデア・ファンド・コンサルティング代表
ファンドアナリスト、FPとして投資信託を専門とした投資助言業を行う。著書『はじめての投資信託』(日経文庫)。
<http://ideafo.co.jp/>

図表1 JPMベスト・インカム (毎月決算型) の状況



図表2 アセットクラスの構成比率の推移



詳しくお聞かせください。
山崎 投資先ファンドの「グローバルインカムファンド」の運用を担っているのは、各アセットクラスの運用チームと、「マルチ・アセット・ソリューションズ」の運用担当者です。前者は、先進国株式、リートなどのアセットクラスごとに分かれており、それぞれ、リスク対比で最も効率よくインカム収益を得ることを目指してボトムアップで銘柄を選択しています。そして、各アセットクラスをどの程度組み込むのかを決めるのが後者です。
「グローバルインカムファンド」では、四半期に一度、各アセットクラスの運用チームのメンバーと、「マルチ・アセット・ソリューションズ」の運用担当者が集まって会議を行います。各運用チームのメンバーは、自分たちが担当するアセットクラスの投資環境を報告します。それを踏まえて、「マルチ・アセット・ソリューションズ」の運用担当者が、アセットアロケーションを自由に決めるのです(図表2)。

そのほかにも、日次や月次でミートイングを行い、状況に応じて機動的に資産配分を変えていきます。
過去1年のリスク水準は5~6%
吉井 「グローバルインカムファンド」の資産別構成比率を見ると、ハイ・イールド債券が32・5%、先進国株式が18・8%、欧州株式が10・3%、などとなっています(図表3)。この点を不安に感じる方もいるかもしれません。
山崎 リスクが高いのではないかとおっしゃる方もいます。ただ、ハイ・イールド債券といっても銘柄を選んで投資しているため、インデックスに投資するよりもボラティリティは抑えられています。また、分散効果によりポートフォリオ全体のリスク量も下げられるのです。
吉井 リスクの水準は定めていますか。
山崎 リスク水準については特に定めておりません。日本の投資家には、過去においては、為替ヘッジなしの

マルチアセットに投資してインカム収益の獲得を狙う
吉井 まずは、『JPMベスト・インカム』(以下、『ベスト・インカム』)の概要を教えてください。
山崎 『ベスト・インカム』は、世界の債券、株式、リートなどを投資対象とし、名前のとおり、ハイエースト(最も高い)ではなく、ベスト(最も適切)なインカム収益や値上がり益が期待できるアセットクラスに分散投資するファンドです。市場環境等の変化に応じて機動的にアセットクラスやその配分を変更し、相対的に少ないリスクで高めのインカムを獲得することを目指しています。
インカム収益をコツコツと積み上げることを目的としているため、為替で収益が振り回されないよう、為替ヘッジを行っているのも特徴です。
吉井 『ベスト・インカム』の投資先である「グローバルインカムファンド」は、2008年12月の運用開始後、欧州で資産を増やしてきました。
山崎 リーマン・ショック後、米国

を皮切りに量的緩和政策、ゼロ金利政策が取られる中で、預金では利息が期待できなくなったお客さまのニーズにフィットしたのだと思います。当時、様々なアセットクラスに投資するタイプで、インカム収益の獲得に絞った戦略のファンドは珍しかったことや、設定後2~3年のリターンが好調だったことが奏功しました。欧州に続きアジアでも人気を博した後、2014年の9月に日本で『ベスト・インカム』が設定されました。当時、リートや通貨選択型など2ケタの利回りが得られるファンドが当たり前のようになっている日本でも、4~5%程度の利回りを獲得していた『ベスト・インカム』が受け入れられるのか、当社としても慎重に捉えていましたが、金融庁の方針変更やお客さまの考え方の変化もあって、ここ1~2年は順調に残高を増やしています(図表1)。
運用のプロが市場環境に合わせて機動的に資産配分を変更
吉井 運用方針について、もう少し